

論文名：中国企業による対外直接投資戦略に関する研究（要約）

新潟大学大学院現代社会文化研究科（論文博士は氏名のみでも可）

氏名 DING Ning

---

（以下要約を記入する）

#### <研究目的と研究方法>

本論文では、近年急速に拡大してきた中国企業による対外直接投資戦略に焦点をあて、理論的かつ実証的な分析を試み、探索研究と実践研究を行った。

探索研究では、多国籍企業理論の有効性と限界を分析し、従来型の多国籍企業理論が提起した理論的枠組みで捉えることが難しい中国多国籍企業を対象に、「中国企業はどのような対外直接投資戦略を行うのか」という研究課題について、3点のリサーチクエスチョンを設定した。それぞれ、RQ<sub>1</sub>「中国企業による対外直接投資はどのようなプロセスで行われるか」、RQ<sub>2</sub>「中国企業による対外直接投資の動機は何か」、RQ<sub>3</sub>「中国企業による対外直接投資の競争優位はどこにあるのか」である。そして、リサーチクエスチョンを解明するために中国の4つの大企業、ファーウェイ、ハイアール、CNPC、吉利汽車のケーススタディを行なった。実践研究では、理論的検討と事例研究を踏まえ、4つの事例の比較分析から、中国企業の対外直接投資に焦点を当て、「中国企業はどのような対外直接投資戦略を行うのか」という課題を新たなアプローチで検証した。

#### <本論の構成>

本論は以下の内容から構成される。

第1章は、中国多国籍企業の対外直接投資の現状から見られる中国多国籍企業の対外直接投資戦略の特徴の分析である。まず、中国企業の対外直接投資の背景特徴を明らかにするため、その歴史的発展過程を追い、その現状の多様化と、新興国企業として特異性を持つという特徴を明らかにした。

第2章は、多国籍企業理論の先行研究による、主流派多国籍企業理論の有効性と限界、および中国企業の対外直接投資に関する理論の成果の分析である。従来型の多国籍企業理論が提起した理論的枠組みで捉えることが難しい中国多国籍企業について、その対外直接投資理論の新たな研究アプローチを明らかにするため、前述した3点のリサーチクエスチョンを設定した。

第3章はケーススタディの研究方法についてである。本研究が注目する「中国企業による対外直接投資」という研究課題は広い領域をカバーするものであることから、複数の事例のケーススタディを行うにあたってのケース選択の理由と実施方法について説明した。

第4章から第7章までは、4つのケースの事例研究である。それぞれの事例研究企業の発展段階を辿り、対外直接投資戦略の展開、企業による対外進出動機、競争優位を考察した。比較分析は以下の通りである。

	ファーウェイ	ハイアール	CNPC	吉利
親会社の形態	有限責任公司	株式有限企業	国有企業	有限責任企業
主な産業分野	ICT	家電	エネルギー	自動車
主要方式	単独出資、M&A	合弁	単独出資、合弁	M&A

進出先	ロシア、欧州、米国	先進国地域	石油大国	先進国地域
投資戦略	現地化戦略 価格戦略 技術戦略 世界の強豪と提携戦略	品質戦略 多角化戦略 多国籍経営戦略 価格競争とニッチ戦略	国内市場活用戦略 資金調達戦略 グループ企業間の協力戦略	世界の強豪と提携戦略
進出動機	最先端技術の獲得 海外人材資源の活用 既存市場へのアクセス	コア技術の獲得 海外ブランドの獲得 既存市場へのアクセス	海外資源の獲得 技術の獲得	海外ブランドの獲得 技術の獲得 市場開拓
競争優位	価格、技術、人的資源 現地パートナーの活用 現地の適応力	価格、技術、人的資源 現地パートナーの活用 現地の適応力	価格、資金力、 現地パートナーの活用	価格、技術、 現地パートナーの活用、 現地の適応力

第8章は、4つの事例分析に基づく議論及び比較分析である。

本章では第1に、RQ<sub>1</sub>「対外直接投資はどのようなプロセスで行うか」という問題についてである。4つの事例の対外直接投資過程および投資戦略の分析のまとめから分析する。第2に、RQ<sub>2</sub>「対外直接投資の動機は何か」という課題を検討する。この問題に対し、先行研究分析と事例研究の分析により、事例研究企業の対外直接投資の動機を市場追求、資源追求、技術追求、戦略的追求、効率追求というタイプに、さらに、その進出パターンは先進国向け型と新興国向け型に分けられる。第3に、RQ<sub>3</sub>「中国企業による対外直接投資の競争優位はどこにあるのか」という課題を検討する。まず、競争優位の源泉を踏まえ、事例研究対象企業4社の競争要素を検証する。

#### <結論と今後の課題>

本研究では、「中国企業はどのような対外直接投資戦略を行うのか」という研究課題について、3点の結論を得た。第1に、「中国企業による対外直接投資はどのようなプロセスで行われるか」について、中国企業は対外直接投資を行う時、従来型の企業とは異なる特異性を持つ。第2に、「その対外直接投資の動機は何か」について、中国企業による対外直接投資の動機は市場追求、資源追求、技術追求、戦略的追求、効率追求である。くわえて、中国企業による対外投資の動機によるその進出パターンは「先進国向け型」と「新興国向け型」に分けられる。第3に、近年に注目されている「対外直接投資の競争優位はどこにあるのか」について、中国企業は現地パートナーの活用、現地の人材、資金調達などの有力な戦略、海外市場でのビジネスを成功させるために競争する際の劣位を補う優位性などが見られる。

最後に、本研究の理論的貢献と実践的貢献および今後の課題についてである。理論的貢献としては、中国企業の多国籍化問題は従来の先行研究が提示した理論的枠組みとは根本的に異なっている点を指摘した。実践的貢献としては、本研究の実証部分で事例研究多国籍企業の対外直接投資に関する最新のデータを取得したことで、企業が対外直接投資する際の参考となりうるデータを提供できた。今後の課題としては、本研究で考察しなかった中小企業などの研究対象の拡大と細分化、対外直接投資戦略に影響を与える説明変数に基づいた動的研究が挙げられる。また、本研究でのいくつかの主観的な憶測に対して、さらに定量的な調査で効果的な実証データを得る必要がある。